

和光



発行 〒894-0007 鹿児島県奄美市名瀬和光町1700番地

国立療養所 奄美和光園

電話 (0997) 52-6311 FAX (0997) 53-6230

令和 5 年 2 月 1 日
(2023)

第 **128** 号

■表紙	1	■雑誌賞受賞	10
■年頭に当たって	2~3	■ハンセン病コ・メディカル学術集会へ参加して	11
■令和4年度 合同慰霊祭	3	■ハンセン病療養所介護員研修に参加して	12
■和光園のクリスマス会	4~5	■認定看護管理者教育課程セカンドレベル研修を受講して	13
■ふるさとお楽しみ便	6	■3年ぶり対面での保健所立入検査	14
■三献(さんごん)	7	■大臣官房監査を受検して	15
■永年勤続表彰	8~9	■奄美和光園の歴史	16~18
		■NST News Letter	19
		■診療統計・人事異動・和光園日誌・編集後記	20

基本理念

私たちは、入所者一人ひとりの生命の尊厳と人権を守り、豊かな自然環境につつまれた穏やかで心豊かな療養生活と、安全で安心できる医療を提供します。



和光園記念公園の緋寒桜ライトアップ

基本方針

1. 入所者の終の棲家として心穏やかな暮らしを支えることを基本とします
2. 入所者自治会とよく話し合い 入所者本位の運営に努めます
3. 入所者一人ひとりの日々の変化にきめ細かく対応いたします
4. ハンセン病による後遺症や合併症の対策をしっかりと行います
5. 入所者が高齢化していることを念頭に置き 健康保持の活動や生活を支える医療さらには感染予防・認知症対策に重点を置きます
6. 地域医療とも連携し 適切で標準的な医療の提供に努めます
7. ハンセン病に対する正しい知識を普及させるため 啓発活動に努めます
8. 開かれた療養所となることを目的に地域社会との交流促進に努めます
9. 入所者の健康と安全な生活に貢献できるようすべての職員の質の向上に努めます



年頭に当たって



国立療養所奄美和光園

園長 馬場 まゆみ

あけましておめでとうございます。令和5年の年頭に当たり、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。昨年12月は曇りや雨の日が多い月でしたが、元日は晴天に恵まれ、清々しい年の始まりを迎えることができました。皆様におかれましては、卯年である本年が素晴らしい飛躍の一年となりますことを心よりお祈り申し上げます。

さて、令和元年12月に始まった新型コロナウイルス感染症との闘いは4年目に入ってしまったが、昨年大きく影響を受けた一年でした。奄美大島では第6波（1月）、第7波（8月）、第8波（12月）と感染者数の増減を繰り返しており、依然として元の生活に戻る目安やポストコロナの生活を想像することは難しい状況が続いております。一方、医学的知見に基づき、昨年は小規模ながらも園内行事を再開することができ、入所者の皆さんの笑顔に職員一同パワーをいただきました。感染症法上の分類の問題ではなく、症状や後遺症が比較的心配のない疾患になるまで、皆で力を合わせてウィズコロナを乗り切りましょう。

と言いますのも、昭和18年に開園した奄美和光園は、今年80周年を迎えます。入所者の方々が年を重ねて体調に変化が生じ、入所者数が減少してしまうことは想像されましたが、新型コロナウイルス感染症やロシアのウクライナ侵攻など、70周年の際には想像もつかない出来事がこの10年間で起こりました。自然災害も年々規模が大きいものが頻発し、海底火山の噴火に

よる津波もありました。入所者の皆さんにとって、一日一日がとても貴重な時間であることを肝に銘じ、今年はすべての行事を「80周年にまつわる記念の行事」と捉えて、準備を進めてまいります。

また、一年の計は元旦にありといわれますが、80周年の記念の年だからこそ入所者の皆さんには「今後に対する思い」をお伺いする機会が増えると思います。「園外レクリエーションに行きたい」「ショッピングに行きたい」「体の自由が利かなくなる前に故郷を見てみたい」「墓参りに行きたい」といった【希望すること】もあれば、「口から食べられなくなった時には」「もしもの時には」といった【穏やかな最期を迎えるための準備】もとても大切なことです。奄美和光園が入所者の皆さんの終の棲家であるからこそ、様々な生活の場面において希望を叶えられるよう、私たち職員に教えてください。

さて、一昨年にはSDGs：Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）が流行語にノミネートされ、昨年は様々な取り組みがメディアで取り上げられるようになりました。当園の施設整備計画は大掛かりな改築ではなく、入所者の皆さんが住み慣れた環境を残しつつ、安全に生活していただけるような改修計画で進めております。資源不足や世界情勢により物資の入荷が遅れることもありますが、不自由者棟の浴室のリフォーム、災害対策としてエレベーターの増築などが今後の計画となっておりますので、楽しみにお待ちください。

関係機関の方々、地域の方々におかれましては、感染対策のため施設内へご招待できる目途が立たず、心苦しく思っておりますが、当園のホームページや社会交流館のYouTubeなどをご覧いただき、当園の「今」を少しでも感じていた

できれば幸いです。そして一日も早くコロナ禍が終息し、以前のように地域の方々と交流できる日が戻ることを願います。

入所者の皆さん、職員ならびに関係者の皆さんのご健康とご多幸をお祈りし、年頭の挨拶とさせていただきます。



令和4年度 合同慰霊祭

令和4年11月10日(木)講堂にて、令和4年度合同慰霊祭が執り行われ、ご遺族、入所者、職員合わせて68名が参列しました。今年もコロナウイルス感染対策のため、マスク着用、手指消毒の徹底、十分な換気といった対応のもと開催となりました。

式典は、はじめに、去年の合同慰霊祭以降に亡くなられた1名を含む399柱の御霊に対して黙祷が行われました。次に、馬場園長からの慰霊の言葉、遺族代表の言葉と続きました。ご遺族が語られた「誰もが何の隔たりもなく安心してその人らしく過ごしていける社会になってほしい」という言葉の重みを感じました。

挨拶が終わると、ご遺族、園長、幹部

職員、入所者、職員の順番で献花が行われました。それぞれが、色々な思いの中、祈りを捧げているように感じられました。その後、納骨堂へ移動し、御前に手を合わせて各自焼香を行い、合同慰霊祭は終了しました。

コロナウイルス感染予防のため、一昨年からさまざまな園内行事の中止が続く中、合同慰霊祭だけは開催したいという入所者や園長の強い思いで、毎年開催してきました。今年も無事に開催でき、故人への哀悼の意を表することができたことは、大変良かったと思いました。

福祉室

医療社会事業専門員 保 裕之



和光園のクリスマス会



令和4年度のクリスマスイルミネーションは、12月13日に点灯し入所者のみなさんへささやかながら綺麗な灯りをお届けすることができました。夕方一緒に散歩をしながらイルミネーションを眺めて楽しめるよう工夫し、ともに喜ぶことができました。

今年のクリスマス会は、12月22日にあすなろホールにて入所者・職員合同で行いました。感染対策を十分に行い、事務職、コ・メディカルから多数の職員も参加し、全員で盛り上がりとても楽しかったです。

あまみ保育園の園児の参加もあり、入所者は「かわいいね。」「やっぱり子供はいいね。」と笑顔で園児に声をかけ喜ばれていました。

サンタ&トナカイに仮装された園長、特命副園長、総看護師長からのプレゼントもあり、入所者のワクワクされた表情がとても微笑ましく心温まる雰囲気となりました。最後の演目では、入所者と職員が一緒に合唱・合奏・ダンスを2曲行いました。あすなろホールに歌や奏でる音で大きな一つの輪となり、会場が笑顔で溢れました。

ご協力いただいた入所者および職員の方、みなさん、短い時間ではありましたが、楽しい年末の一時をありがとうございました。

看護サービス委員

治療棟 介護員 黒木 貴雄

和光園のサンタ&トナカイせん！
ミニサンタもやってきた♪





♡入所者も職員も、みんな笑顔いっぱい♡



ふるさとお楽しみ便

令和4年12月19日(月)、毎年恒例のふるさとお楽しみ便贈呈式が自治会事務所にて行われました。

ふるさとお楽しみ便とは、鹿児島県より全入所者に対して、毎年12月に県産品の詰め合わせが贈られるもので、1995年に始まり今年で28回目となります。

今年は鹿児島県から4名の方に来園いただき、贈呈式が執り行われました。

式では初めに、全入所者に対して、鹿児島県くらし保健福祉部健康増進課の黒崎課長より、塩田県知事の思いやりのある温かいお言葉を園内放送で代読していただきました。続いて、園に届いたふるさとお楽しみ便を入所者代表が黒崎課長より受け取りました。

その後、入所者代表と出席者それぞれが言葉を交わして贈呈式は終了しました。入所者代表は、少し緊張したような表情でしたが、言葉を交わす際には時折笑顔も見られておりました。

お楽しみ便の中身は、県の方が皆様の声を取り入れ、工夫を凝らして選ばれた充実した内容となっていました。

入所者代表の方は、県の方からお楽しみ便の中身の説明に、うんうんとうなづき「こういうのは珍しいですね。」「毎年、楽しみにしています。ありがとうございます。」と、喜ばれていました。他の入所者のみなさんも、大きな箱に詰まった県内特産品の豊富な品々を職員に笑顔で紹介してくれました。

一昨年から園内外の行事は中止が続いておりましたが、今年は感染対策を実施しながら、少しずつ園内の行事を再開させることができました。

最後になりますが、このような心のこもった贈り物を毎年届けてくださる鹿児島県の皆様に感謝申し上げます。

福祉室長 高橋 貴博



三 献 (さんごん)

奄美の「三献」について紹介させていただきます。

「三献」とは、一の膳、二の膳、三の膳からなり、膳の合間に一献ずつ合計三献のお酒（焼酎）をいただく、正月や祝日のようなハレの席において欠かすことができない儀礼食の一つです。地域により異なりますが、提供される料理は次のようになります。

「一の膳」吸物

（餅の吸物：餅、海老や蒲鉾、奇数の野菜等が入る、赤椀）

「二の膳」刺身

「三の膳」吸物

（肉の吸い物：豚または鶏、冬瓜、野菜等が入る、黒椀）

また、一の膳の前に、塩、さきいか、昆布からなるシューメリ（塩盛）をいただいたり、三の膳を食べ終わった後、ヒムシ（干物）と呼ばれる焼き魚をいただいたり、「三献」が終わった後に、大晦日に食べる豚骨や本土のようなお節料理をいただく家庭もあるようです。各家庭、各シマで色々な三献の料理があります。

当園においても島の文化を尊重し、本年も正月三ケ日は三献料理を模して、お刺身や雑煮といった祝いの食事を入所者の皆さんへ提供させていただきました。

給食係長 田中 信

令和5年 正月のお食事



元 日



2 日



3 日





このたび永年勤務表彰をいただきありがとうございます。これもひとえに多くの皆さまの支えがあり、この日を迎えることができたと感謝いたしております。

勤続 30 年を迎え、振り返ると、転勤した 5 施設での思い出や、片道 60 キロを通勤した日々、また嬉しかったことや落ち込んだことなど、多くを思い出す機

会となりました。その度に多くの皆さまに助けられ、励まされながら今日を迎えることができていることを痛感いたしております。これからも、人とのつながりを大切に、そして感謝の気持ちを忘れずに頑張っていこうと思います。

総看護師長 中寫 洋子

平成 4 年に採用となり、今年で勤続 30 年を迎えることができました。この間 12 施設で勤務させていただきましたが、これまでご指導くださった先輩方や、共に仕事をした同僚・後輩等多くの方々にご助力いただいたからこそ 30 年間勤務を続けてこられたのだと思うと、感謝の言葉しかございません。

しかし、私自身はまだまだ至らない点も多いかと思いますし、異動の度に多くの方々と共に業務に従事することになるかと思います。今回の表彰を励みにこれからも精進していきたいと思います。

福祉室長 高橋 貴博

平成 4 年 4 月、国立療養所川棚病院(現国立病院機構長崎川棚医療センター)に採用されたのが厚生労働省での私のキャリアの始まりでした。当時 28 歳、郵便局からの転職でした。いきなり医事に配属され、病院の仕事の何たるかを叩き込まれたことが懐かしく思い出されます。ド素人に医療事務を実務で覚えさせる、とても乱暴なやり方でした。それから 30 年、12 の施設を巡り、気づくと自分の前半生を超える年月が過ぎていまし

た。その間、色々なことがありましたが…まあ、それは退職のあいさつにとっておきましょう。

30 年間、馬齢を重ねただけとも言えるのですが、この度は栄えある表彰をいただき、感謝しています。定年までそんなに長くもない身ではありますが、この表彰を励みに勤めさせていただきたいと思います。ありがとうございました。

会計班長 岩橋 竜一

平成4年1月に国立小倉病院での非常勤職員から始まった国立・国立病院機構職員としての看護師経験は、振り返れば正職員として20年以上の長い勤続になっていたことに感慨深く、このような誇らしい表彰受賞に心より感謝申し上げます。福岡県のための3施設での長距離を黙々と走る通勤生活しか知らなかった私は、令和2年4月からこの奄美大島で初めての単身赴任生活へ突入しました。どの施設でもアットホームな職場環境に

恵まれ、周囲の方々に育てていただいたという感謝の思いでいっぱいです。ここ奄美大島では私の大好きな自然とこの地の人の温かさに触れられたことが、今回の永年勤続への最高のプレゼントだと感じています。今後も今の私にできることを積み重ねてまいりたいと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

看護課 副総看護師長 林 理恵

この度は、20年永年勤続表彰を頂き誠にありがとうございます。

私は診療放射線技師として経験は30年以上になりますが、国立としての経歴は国立小倉病院（現小倉医療センター）から始まり、熊本南病院、福岡東医療センターを経て国立療養所奄美和光園で4施設目になります。

今回、20年永年勤続を迎えることができたのは、放射線科だけでなく放射線

科以外の医療スタッフや事務の方々に色々ご指導していただき支えられたことによるものと大変感謝しています。

永年勤続の表彰を受けましたことを胸に、これからも放射線科業務に励みながら職場の発展に貢献したいと思います。

今後ともよろしくお願いいたします。

放射線科
診療放射線技師長 高島 憲章

このたびは、20年勤続表彰をいただき、誠にありがとうございます。

この日を迎えることができましたのも、入所者のみなさんはじめ、多くの上司、先輩、同僚、職場のみなさんの支えがあったことだと心より感謝申し上げます。

平成14年に奄美和光園に入職し、これまでの20年を振り返ると、入所者のみなさんとの思い出が沢山よみがえり、とても心が温かい気持ちになりました。

す。

20年間教わることばかりであり、自身の力不足を感じることも多くありました。今後は、少しでも恩返しができるよう「入所者のみなさんにとって、より良いことは」を念頭に、私にできる精一杯の努力を続けてまいります。今後とも、よろしくお願いいたします。

不自由者棟 看護師 佐々木 和美

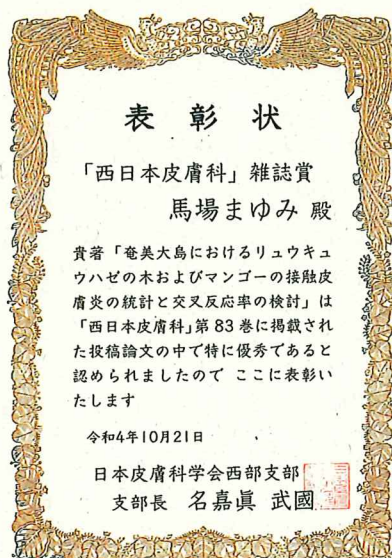
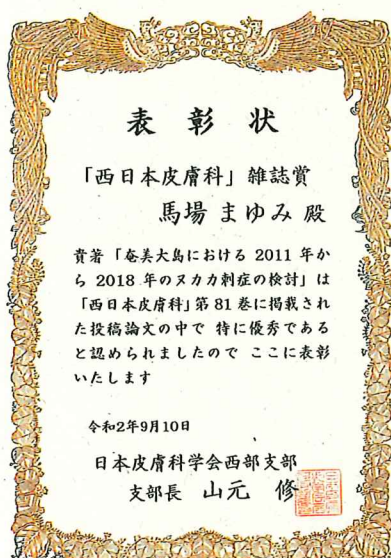


雑誌賞受賞

医療は日々進歩しているため、医療者の多くは学会に所属して新しい情報を入手します。学会によっては定期的に発刊される学会誌があり、会員から投稿された論文が掲載されています。

私が所属する日本皮膚科学会西部支部の学会誌「西日本皮膚科」は年6回発刊さ

れており、掲載論文の中から毎年最大6編に雑誌賞が授与されます。同一著者の受賞は2回までとされています。このたび第12回雑誌賞につづき、第14回雑誌賞をいただきました。



第12回 奄美大島における2011年から2018年のヌカカ刺症の検討

第14回 奄美大島におけるリュウキュウハゼの木およびマンゴーの接触皮膚炎の統計と交叉反応率の検討

他の受賞論文は大学病院や総合病院からの難しい題名で、私のような地元愛たっぷりの題名は希少です。皮膚科外来の予約制度導入前で、1日の受診患者数が40人以上だった時代に、多くの症例を検討することができたため作成できた論文です。管理職となり、このような論文を作成することは今後できませんので、大変でしたが有意義な経験でした。

さて医師になり約20年、私の場合は10個の学会に所属し、3個の認定資格を取得しています。認定の更新のためにはノルマがあり、学会参加、講習会受講、学会

発表、論文発表などでポイントを貯めるにあたり、効率が良いので私は可能な限り学会発表と論文発表をセットで行ってきました。さすがに今年度は園長業務と医師数減少に伴う診療業務増量のため、学会発表した3つとも論文作成に至っていませんが、時間に余裕ができたらず手したいと思い、資料を綴じたファイルを本棚のいつも見える所に置いて機会を待っています。

園長 馬場 まゆみ

ハンセン病コ・メディカル学術集会

「家族の思いを知る ～より良いライフサポート活動のために～」へ参加して

令和4年11月25・26日に岡山県で開催されたハンセン病コ・メディカル学術集会に看護課から2題、口演発表で参加しました。3年ぶりの全国からの集合スタイルということで、発表に対する各演者の熱意が伝わってきました。私自身もとても緊張しましたが、看護だけでなくリハビリ・栄養・福祉等の多部門からの演題には、ハンド・フットケアや退院支援、ポジショニング、楽しめる食事、嚥下障害者への食事の工夫、家族支援等、他園においても多職種で協力しながら入所者のケアを行っていることがわかり、よい学びの機会となりました。参考にしたいと思える演題が多数あり、今回の学びを今後の和光園にもぜひ広めていきたいと思いました。

今回のテーマは、「家族の思いを知る」ということで、入所者ご家族の生の声を間近で聴かせていただく機会がありました。当園だけでなく全国のハンセン病療養所で様々な入所者にご家族の忘れられない体験があることが分かりました。私たちスタッフは、入所者にご家族のこれからを繋いでいく役割を担っていくために、入所者だけでなくご家族の思いも大切にしなければならないと深く心に刻みました。このような貴重な体験の機会をいただいたみなさまに心より感謝申し上げます。

不自由者棟 看護師 白間 愛子



ハンセン病療養所介護員研修に参加して

令和4年度国立ハンセン病療養所介護員研修に奄美和光園から3名の介護員が参加させていただきました。研修の目的は、国立ハンセン病療養所に勤務する介護員の役割と責任を再認識するとともに、必要な知識・技術・態度の向上を図ることでした。事前に7つの講義をDVDで視聴した上で、自施設の問題と感じていることについてレポートし、10月18日の園内グループワークでファシリテータ役の職場長の支援のもと「入所者を支える介護」について研修生間で2時間熱く語り合いました。さらに11月10日全国13園でのオンライン発表会で、グループワーク内でまとめた内容を発表しました。

他施設の発表を聞き、どの施設も入所者一人ひとりの想いに寄り添うケアが実践され、入所者に楽しんでもらえるよう様々な

工夫を凝らしてレクリエーションを実践されていることがわかりました。私たちは、その人の本質を理解してケアしようとする姿勢について発表しました。当園で行った奄美大島ならではの八月踊りや舟漕ぎ大会も紹介し、和やかな雰囲気の中で13園の方々と意見交換できました。今回の研修で学んだことを現場で実践し、入所者一人ひとりが自分らしく過ごしていけるよう、これからも当園の看護理念である「その人らしさを大切に」を意識しながら入所者に寄り添った介護を目指していきたいと思います。貴重な学びの機会をいただきありがとうございました。

不自由者棟 介護員 安田 ひとみ



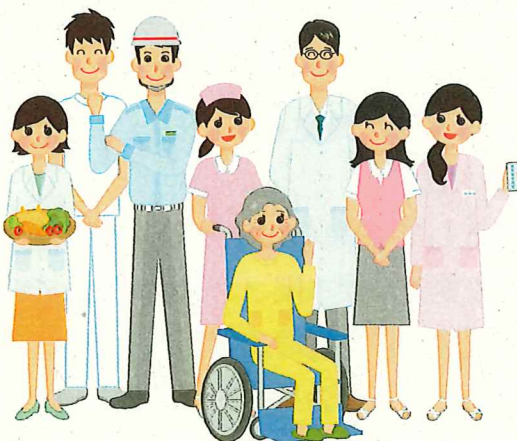
認定看護管理者教育課程 セカンドレベル研修を受講して

今回、国立病院機構主催によるセカンドレベル研修¹⁾に出席させていただきました。この研修は、質の高い組織的看護サービスの提供を目指し、様々な状況に対応できる看護管理者の育成を目的としています。全国から集まった看護管理者48名が、186時間かけて講義やグループワークに奮闘しました。今回、コロナ禍において地域ケア実習の1日以外は全てWeb（ネット通信）による研修であったため、その良さと問題を踏まえ学習効果を上げる難しさを体験しました。また、他施設の管理者と話

し合いを重ね、和光園で行われているケアの強みや自分の看護管理のあり方・課題を改めて見つめ直す機会となりました。

このような長期研修の機会をいただいたことに、深く感謝いたします。この学びを、入所者の安全で心地よい暮らしの支援に繋がるよう努力していきたいと思っています。

治療棟 看護師長 窪田 マキ



- 1) セカンドレベル研修：認定看護管理者の教育課程には、ファーストレベル、セカンドレベル、サードレベルの3課程があります。質の高い組織的看護サービスを提供することを目指し、保健医療福祉に貢献できる看護管理者の育成を目的とした研修で、セカンドレベルは180時間かけて看護管理を学びます。

3年ぶり対面での保健所立入検査

令和4年11月24日、3年ぶり保健所職員が来園され立入検査が実施されました。令和元年度に来られたのを最後に、2年度は実施無し、3年度は書面検査のみでしたので、対面での検査は初めてという職員がほとんどでした。事前提出書類は各部署に作成してもらい期限内に提出することができました（これは去年もありましたので概ね順調）。

検査当日は13:30開始でしたが、事務官2名が書類点検のため早めに来園されました。健康診断は事前提出書類の従事者名簿と健康診断結果とを1人ずつ突合され、「この人は?」「人間ドック受診者です。新規採用者です」など従事者名簿と一致しない場合は1人1人確認されました。免許証や消防関係についても点検されましたが大きな問題もなく(?)午前は終了しました。

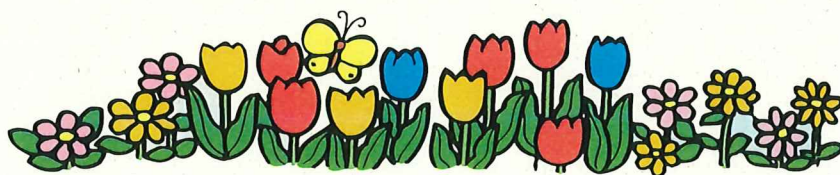
そして名瀬保健所所長を筆頭に総勢9名の検査員が来園され、挨拶が終了すると、まずは園内の配置確認。ある検査員は処置室を、別の検査員は掲示物の確認と、園がこじんまりとしているせいか、こちらが密にならないようお願いしていたためか検査

員が一つところでとどまることなく治療棟と病棟を確認されました。対応する職員はあせったかもしれませんが……。そしてその流れのまま、給食室へ、感染性廃棄物の保管場所へと検査員がそれぞれの担当部署に行かれました。ここからは各職場の職員が検査員に対応し、無事に検査を終了することが出来ました。

講評では医師不足が指摘されましたが、多くの検査員から整理・整頓が来ている、保険所長からは5Sが行き届いていたとのコメントをいただきました。

1月16日に立入検査結果通知が届きました。医師数不足の指摘、口頭指摘、現場指導がありました。口頭指摘、現場指導については今年対応が可能ですので、次回の立入検査では指摘されないようお願いします。医療の安全管理のための体制確保として5S（整理・整頓・清掃・清潔及びそれらの習慣化）活動の継続を指導されていますので引き続きご協力をお願いします。

庶務班長 岡部 達枝



大臣官房監査を受検して

今般、「厚生労働省大臣官房会計監査指導」なるおどろおどろしい名の監査を受けました。事務職が恐れ慄く泣く子も黙る恐怖の監査、と言いたいところですが、何のことはない、年1回、時期は定まらないながら定期的に行われる監査です。年中行事ですね。

当園は厚生労働省の地方施設なので、行っている業務についても厚生労働省が直接監督します。省内に大臣官房という部署があり、そこに監査官という人たちがいて、その人たちが直接調査に来るという図式になります。

年中行事ではあるのですが、やはり受検は気が重いものです。例年と違ったのは今回3年ぶりの臨場監査だったことです。コロナ禍により、令和2年度・3年度と監査は中止になりました。この2年、書面監査ということで、書類の提出だけで済んでいたのですが、世の中がウィズ・コロナに舵を切るとともに、今年は元通りの臨場監査となりました。

12月14日(水)、定刻通り3名の監査官が来園しました。ここから16日(金)まで3日間の監査を受検しました。会場には3台の長机を置いてそれぞれの机に監査官が座ります。かつては反対側に事務職員が鈴なりに座り、監査官の質問に対し回答していきました。「監査官前の席を空けるな。必ず誰かが座っておけ。」というのが監査対応の心得でした。しかし時代は変わり(コロナの影響が大きいのですが)、

今回監査では関係書類一式を提出、監査官がその内容をチェック、その間監査会場には誰も控えておらず、質問事項を監査官が整理し、都度関係職員が立ち会い対応する、という方法になりました。監査会場ははりつめた空気になるので、そこに居なくてよいのは結構な話ですが、いつ来るかわからない電話を待つのもそれはそれで気が重いものでした。

3日間の監査で細かい指摘をいろいろと受けたのですが、大きな指摘事項はありませんでした。監査官が引き揚げた後も監査は終わりではありません。監査対応録を作成して監査官との遣り取りを記録しておきます。指摘されたことは来年また同じ指摘を受けることがないように是正します。是正報告を本省に送り、ようやく監査は終わります。

監査というのは憂鬱なものですが、それだけに終わったときは大きな開放感が感じられます。また職務のことで自分たちの理解が不十分だった点について学ぶ場にもなります。いずれまた監査には立ち会わねばなりません。その際にしっかり対応できるよう、個々の業務に精通していきたいと考えています。

会計班長 岩橋 竜一

一 奄美和光園の歴史 一

【(12) 資料収集状況】

広報誌「和光 令和2(2020)年5月1日第117号」から、和光園の歴史について書かせていただき、早いもので約2年9ヶ月が経過し、今回で12回目となる。

当園には、入所者自治会の記念誌がないため¹、「創立70周年記念誌」をはじめとして和光園の創立記念誌²、過去の広報誌「和光」³などを参考にして、和光園の歴史を紹介した。特に創立50周年記念誌に相当し、和光園職員必読の書と言える^{4,5}「光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年 1993年8月10日第2刷発行」からは、多くを引用している。

第11代園長の瀧澤英夫先生が中心となって作成した「光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年」以外にも、第7代園長の大西基四夫先生が書いた「まなざし 一癪に耐え抜いた人々」がある。この書籍は「その一」と「その二」があり、園内の3階図書室に「その一」が保管されてあるが、「その二」は園内では見つけることが出来なかった。いろいろ探した結果、奄美図書館に所蔵されていることが分かり、借りて読むことが出来た。この本にも和光園に関する貴重な記述がある。

当園には、入所者自治会の記念誌はないが、同じ鹿児島県内にある国立のハンセン病療養所である星塚敬愛会園の入所者自治会が発行している「星塚よ永遠(とこしえ)に 一名もなき星たちよ 平成27(2015)年10月28日発行」にも、当園に関連する記事がある。

米軍政府統治下の昭和22(1947)年3月15日、14歳の時に和光園へ入所し、その後入所者自治会長等を歴任した山本栄良

さんが自費出版した「人は人の中で生きて死ぬ(手記) 自費出版 元ハンセン病患者～山本栄良」⁶があり、貴重な記録となっている。

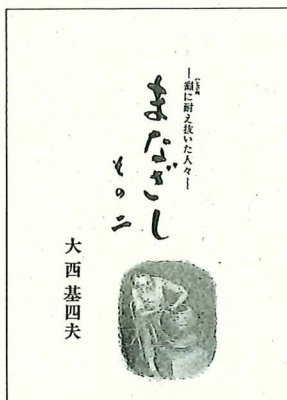
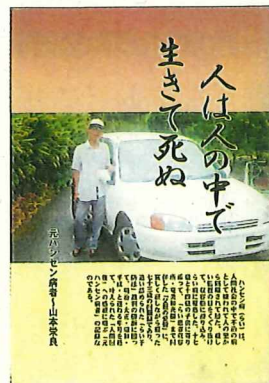
また、インターネットを活用して、Google scalar等で検索するとハンセン病に関する研究論文はたくさん検出される。その中には、和光園に関する論文等⁷もあり引用した。

その他、鹿児島県立奄美図書館(奄美市)やりゅうがく館図書室(龍郷町)には、奄美の歴史に関する書籍があり、その中に和光園に関する記述⁸もあり、参考にした。県立奄美図書館には、昔の「奄美タイムス」、「南海日日新聞」等の縮刷版、マイクロフィルム版や和光園初代事務長の松原若安氏に関する研究論文等⁹も収蔵されており、当時の和光園の状況を伺い知ることが出来る。

以上、創立記念誌、研究論文等の記述をもとに記事を書かせていただいているが、それらの記録・記述全てに必ずしも整合性が取れているとは限らず、時々判断に苦慮することがある。そのうちの 하나가、初代園長の保田耕先生が亡くなった日である。

【初代園長 保田耕先生(在任期間S18.4.5～S18.9.12)の亡くなった年は、昭和18(1943)年か、それとも昭和20(1945)年か】

古い方の記録で、「創立20周年記念誌 S40.3.30 奄美和光園のあゆみ, P13」には、退職年月日欄に「18.9.12」、備考欄に「応召戦死」と記載されてある。一方、「光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年, 1993年8月10日発行」のP67には、「保田耕 1907～43年。(中略)昭和十八年(1943)九月十二日、中国



大陸で戦死(後略)」、同P128には「8. 31 保田園長が応召出征。」とある。

一方、比較的新しい「行幸啓及び創立60周年記念誌—最近10年のあゆみ—、平成18年12月発行、P27」に、保田耕先生「昭和20年5月戦死」との記述がでてくる。私はしばらくの間、新しい60周年記念誌の記述の「昭和20年5月戦死」は誤りで、古い方の記述の応召出征した翌月の昭和18(1943)年9月12日に保田園長は、亡くなったものと理解していた。

第4章 歷代職員名簿

歷代職員名簿

氏 名	職 名	任 年	採 月	用 日	退 年	職 月	任 日	備 考
保 田 耕 廐	医 官	18.	4.	5				
	保田耕 一九〇七—四三年。和歌山県生まれ。外島興業園(金久光明園)を経て初代奄美興業園長となる。昭和十八年(一九四三)九月十日、中国大陸で戦死。実弟も光明園園主であった。	昭和十八年(一九四三)	2.	11	竣工式と行われる。			
		勅令第二百七十八号をもって官制公布。厚生省告示第百三十八号をもって奄美興業園と位置が決まる。	3.	30				
		5.	5					
		8.	12					
		8.	31					
		9.	12					
		5.	27					
		保田耕園長ほか職員七名、家族二名が着任。						
		松本当太郎が園長に発令。						

67

67

歷代園長名簿

氏 名		在 職 期 間	備 考
初代	保 田 耕	自 昭和18年 4月 5日 至 昭和18年 9月11日	昭和20年5月戦死

保田園長について、令和元(2019)年8月30日にインターネットで調べたところ、「goo Wikipedia “保田耕とは”」に「(前略)1943年9月7日。中国大陸で戦死。(中略)1945年5月27日中国湖北省武昌方面の軍病院に勤務中、腸チフスとマラリアに感染。戦病死とあるが、....(後略)。」と出典は記されてあるが、保田先生が亡くなった年が昭和18(1943)年とも、昭和20(1945)年ともとれる情報が出てきた。

保田耕とは - goo Wikipedia (ウィキペディア)

(拔粹)

保田耕

出典: フリー百科事典『ウィキペディア (Wikipedia)』

保田 耕(やすだ こう、1907年 - 1943年9月7日)は、日本の眼科医。外島保健院と邑久光明園というハンセン病療養所に勤務し、初代赤井和崇園長が設立されたが、応召し、中国で戦病死した。

略歷[輯集]

1907年、和歌山県で出生。1932年、大阪大学卒業。外島養院医員。1934年、外島養院水害後は色久光明園に勤務。1938年、色久光明園院長に就任。1943年、奄美外島衛生局長兼務。5月27日国兵団長柿沼一輝員と共に家族23名が奄美大島に到着。戦争が激しく奄美大島の出入りはなかった。1947年8月1日、柿沼は**1947年7月7日、中国で戦死**。同日 松本太太郎が奄美と光明園院長共に戦死。^[1]の文獻によれば、1949年に赤松祐次、太田大の連関に購入され、1945年5月27日中国湖北省武昌市軍用の軍病院に勤務中、国兵マラリアに感染。戦死するとあるが、この日が奄美大島到着の日であるのを取り違えたと思われる。^[1]

そこで、出典の原文を調べることにした。この「goo Wikipedia」の情報には、出典「保田耕，旧外島保養院誌 26-27，桜井方策 楓 昭和 7，8 年代の医局展望」が記されてある。外島保養院はすでにないが、外島保養院を前身とする国立療養所邑久光明園であれば、この文書を保存してあるのではと考え、問い合わせをした。令和 2 年 4 月 6 日、国立療養所邑久光明園 社会交流会館の学芸員さんから、「旧外島保養院誌 桜井方策著 1974 年刊」を抜粋したコピーが届いた。この本は、機関誌「楓」の連載記事を 1 冊にまとめたもので、数冊しか発行されなかった貴重なものである¹⁰。

その本のP189には、「保田軍医は武昌部隊一五六兵站病院において、二十年五月二十七日、ついに戦病死されたのであった。(以上は保田未亡人の通信による)」と記されてある。保田先生の妻の通信からの引用であり、信頼性の高い情報である。保田先生が戦病死されたのは、昭和18(1943)年ではなく、終戦の年、昭和20(1945)年5月27日戦病死が正しいと考えられる。

[illegible]

結論として、保田先生が戦病死された日は、和光園内の新しい方の記述「行幸啓及び創立 60 周年記念誌－最近 10 年のあゆみ－，平成 18 年 12 月発行」がより正確である。保田先生の和光園園長就任から戦病死までの経緯を整理すると以下の通りになる。保田先生は、昭和 20 (1945) 年 8 月 15 日終戦の約 3 か月前に戦病死していることになる。

- 昭和 18 (1943) 年 4 月 陸軍省と交渉して、召集を免除されることを条件に、戦地に召集されていく気で国立療養所奄美和光園初代園長となること^{11 12}が決定。
- 昭和 18 (1943) 年 5 月 27 日 嘉義丸が潜水艦に撃沈される中、保田耕先生ほか職員 7 名と家族 21 名が奄美大島へ来島¹³。
- 昭和 18 (1943) 年 9 月 保田先生へ赤紙が急配送され、大阪の連隊に軍医として召集され、中支方面の派遣軍に加わる¹⁴。
その後、転戦に転戦を重ね、湖北省武昌の軍病院に勤務¹⁵。
腸チフスとマラリアに感染¹⁶。
- 昭和 20 (1945) 年 5 月 腸チフスとマラリアに感染¹⁶。
- 昭和 20 (1945) 年 5 月 27 日 湖北省武昌部隊一五六兵站病院において、腸チフスとマラリアで戦病死¹⁷。

改めて、当園の一番古い記録である創立 20 周年記念誌 S 40. 3. 30 「奄美和光園のあゆみ」 P 13 を見てみると、保田先生の「退職、転任年月日」が「昭和 18 年 9 月 12 日」であること、保田先生が「応召戦死」されたことの二点が記述されてあるだけであり、必ずしも、「保田先生が昭和 18 年 9 月 12 日に応召戦死した。」と記述さ

れているわけではないことが分かる。

「行幸啓及び創立 60 周年記念誌」の編集委員の中には、保田先生が亡くなった日を知っているなど和光園の歴史にとっても詳しい方がいたようで、敬服させられる。

福祉係 (学芸員) 岩辻 好夫

- 1 光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年, 1993 年 8 月 10 日発行, P 186
- 2 創立 20 周年記念誌 S 40. 3. 30 「奄美和光園のあゆみ」
皇太子殿下 皇太子妃殿下 行啓記念誌, 昭和 44 年 3 月 30 日発行
創立 40 周年記念誌 昭和 58 年 4 月 5 日
光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年, 1993 年 8 月 10 日発行
行幸啓及び創立 60 周年記念誌—最近 10 年のあゆみ—, 平成 18 年 12 月発行
創立 70 周年記念誌 国立療養所奄美和光園 平成 25 年 (2013), 平成 27 年 3 月発行
- 3 昭和 27 (1952) 年 「年報」、入所者自治会誌 「和光」 昭和 29 (1954) 年 1 月復帰号～昭和 46 (1971) 年, PDF 版
広報誌 「和光」 平成 2 (1990) 年 5 月 1 日第 1 号～平成 21 (2009) 年 11 月 1 日第 78 号, PDF 版
- 4 創立 70 周年記念誌 国立療養所奄美和光園 平成 25 年 (2013), 平成 27 年 3 月発行, P 136
- 5 行幸啓及び創立 60 周年記念誌—最近 10 年のあゆみ—, 平成 18 年 12 月発行, P 54
- 6 人は人の中で生きて死ぬ (手記), 自費出版, 元ハンセン病患者～山本栄良, 平成 17 年 3 月 15 日刊行, 印刷 DTP. Ram, P 34, 212
- 7 ハンセン病患者から生まれた子供たち—奄美大島における妊娠・出産・保育・養育のシステムの軌跡— 2009. 6. 3, 森山一隆、菊池一郎、石井典久
優生保護法下で生まれたハンセン病患者の子どもたち：その人物史的考察のための予備的研究, 2012. 3, 名寄市立大学社会福祉学科研究紀要, 瀬戸口裕二
- 8 軍政下の奄美 日本復帰三〇周年記念誌 一九八三 (昭和 58) 年十二月二五日発行, 奄美郷土研究会, (有) 広報社, P 56～64 「軍政下の和光園 中村民郎」
- 9 奄美大島におけるハンセン病問題とカトリック—松原若安を中心に—, 純心現代福祉研究 No12, 2008, 杉山博昭
- 10 Leprosy.jp ホームページ 「外島保養院、光明園の歴史を残すべく機関誌 「楓」 の編集に携わる」,
<https://leprosy.jp/people/Mochizuki/>, 令和 4 (2022) 年 5 月 23 日参照
- 11 光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年, 1993 年 8 月 10 日発行, P 66, 67
- 12 旧外島保養院誌, 桜井方策刊, 1974 年刊, P 188
- 13 光仰ぐ日あるべし 南島のハンセン病療養所の五〇年, 1993 年 8 月 10 日発行, P 68
- 14 旧外島保養院誌, 桜井方策著, 1974 年刊, P 189
- 15 同上, P 189 16 同上, P 189 17 同上, P 189

国立療養所奄美和光園 交流会館 (歴史資料館)



**YouTubeで和光園の
歴史を紹介しています。**

国立療養所奄美和光園ホームページ
交流会館 (歴史資料館)



YouTube

当館は、奄美和光園の歴史紹介、ハンセン病に対する正しい知識の普及及び啓発等を行うため、令和 2 年 8 月 3 日に開館しましたが、新型コロナウイルス (COVID-19) 感染拡大防止のため休館しています。

現在、和光園ホームページ (厚生労働省 YouTube ヘルプ) からの情報発信を進めており、13 本視聴できるようになっています。左の QR コード又は以下の URL から、和光園交流会館の YouTube 動画へアクセスできます。ご視聴いただければ幸いです。

https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/iryuu/hansen/amami/kouryuu.html



誤嚥性肺炎・口腔乾燥症について

食べ物や唾液が食道でなく気管の中に入ることを「誤嚥」と言い、誤嚥による肺炎を誤嚥性肺炎と言います。

誤嚥性肺炎は、重症化すれば死に至ることも有ります。「誤嚥」を起こしやすくする

る要因は、食べるときの姿勢が悪い、飲み込む力の低下など多岐にわたりますが、口の中の乾燥（唾液の減少）も誤嚥を起こしやすくする原因のひとつです。

下記に主な唾液の役割を示します。

食塊形成	歯で噛まれて小さくなった食べ物に混和され、嚥下しやすい形態（食塊）を作る
溶解	食物の味物質を溶解し、味を感じる舌の味細胞へ吸着を促進
粘膜保護	辛い物、熱い物、硬い物など刺激の強い物から粘膜を保護する
潤滑	粘膜を湿らせ滑りをよくすることで、発音時や食事時の舌や口唇・ほほの運動を円滑にする
浄化	食べかすや歯垢、剝離した粘膜上皮などを洗い流す
消化	酵素によりデンプンをマルトースに分解する
抗菌	口腔外からの異物や細菌の侵入の予防及び歯周病の原因となる細菌など口腔内の細菌の増殖を抑制する
緩衝	飲食や胃酸の逆流などにより酸性に傾いた口腔内、食道を中和する
再石灰化	飲食等により溶けかかった歯の表面のカルシウムやリン酸イオン濃度を高めて歯の溶解を防ぐ

このなかで食塊形成・潤滑作用は食物の嚥下をスムーズに行うのに必要です。浄化や抗菌作用は、もし誤嚥をしてしまった場合の炎症の発生リスクを軽減します。下記

に口腔乾燥症チェックリストをあげています。当てはまる項目の多いほど口腔乾燥症のリスクが高くなります。

1	舌や口唇がひび割れる	☐	2	虫歯や歯周病になりやすい	☐
3	味がわかりにくい	☐	4	煎餅など乾いたものが食べにくい	☐
5	ミカンや醤油などがしみる	☐	6	口臭が気になる	☐
7	しゃべりにくい	☐	8	水をよく飲む	☐
9	水を飲むために夜間に起きる	☐	10	口の中がヒリヒリ痛い	☐
11	口の中がネバネバする	☐	いくつ当てはまりましたか？		

口が乾く症状の原因もいろいろありますが、お薬にも服用により（唾液の分泌を押さえるなどの副作用のため）口渇を来す薬剤（睡眠薬、アレルギーの薬、咳止め薬等）を複数服用していると、より口渇が強くなる可能性が高いため、なるべく服用薬剤の数は抑えた方が望ましいです。

誤嚥性肺炎を予防するため、嚥下体操などで飲み込む力を維持し、正しい姿勢で食事を取り、歯磨き、口腔ケアなどで口の中を清潔に保ちましょう。

薬剤科 薬剤師 田原 直行

令和4年度 診療統計

	外来診療					再掲		入院診療	BIO	
	初診(人)	再診(人)	合計(人)	1日平均 (人)	診療実日数 (日)	紫外線療法 (件)	手術/生検 (件)	延患者数 (人)	導入	維持療法
11月	99	220	319	24.5	13	50	17	0	0	1
12月	94	206	300	25.0	12	48	5	0	0	0
1月	58	187	245	24.5	10	43	5	0	0	0

人事異動

(令和4年11月1日～令和5年1月31日)

R 4. 11. 1	有村 彩夏	事務補助員(期間業務職員)	復職(育児休業)
R 4. 11. 29	丸田 淳	看護師(臨時的任用職員)	任期満了
R 4. 12. 1	赤尾 優子	看護師	復職(育児休業)
	重原 恵美	看護師	復職(病気休業)
R 4. 12. 31	吉田 正巳	副調理師長	退職
	中野 竜也	調理師(育休期間業務職員)	退職
R 5. 1. 1	中野 竜也	調理師(期間業務職員)	採用

和光園日誌

(令和4年11月1日～令和5年1月31日)

R 4. 11. 10	合同慰霊祭
11. 16	第5回アニマルアシストセラピー
11. 20	停電作業(自家用電気工作物の定期点検)
11. 24	保健所立入検査
11. 24・29	インフルエンザワクチン接種
11. 25～26	第34回ハンセン病コ・メディカル学術集会
12. 1～23	新型コロナウイルス(オミクロン株)ワクチン接種
12. 6・8	特別健康診断
12. 14～16	大臣官房会計検査
12. 15	第6回アニマルアシストセラピー
12. 19	ふるさとのお楽しみ便贈呈式
12. 22	クリスマス会
12. 28	仕事納め式
R 5. 1. 4	仕事始め式
1. 12	永年勤続表彰
1. 17	認可外保育施設立入調査(あまみ保育園)
1. 18	第7回アニマルアシストセラピー
1. 21	省内LAN更新準備

編集後記

年始に駅伝中継を観ていてふと、選手たちは走っている間何を考えているのだろーと思いました。おそらく「無心」なのではないでしょうか。それから「スマホ脳」という言葉を思い出しました。スマホで新しい情報を常にチェックしていると脳がいっぱいになって脳疲労となり、そうするとストレスに対して弱くなるらしいです。ぼーっとする時間を作って脳を休める事が大切なのです。

スマホに縛られず無心になる事も、時には必要なのかもしれないですね。

編集委員 田 中 信